

2019 年度
調査報告書

ラグビーワールドカップ 2019™
大会ボランティアに関する調査



日本スポーツボランティアネットワーク

目 次

<u>1. 調査の概要</u>	-----	1
<u>2. 調査結果</u>	-----	3
1) 回答者の性・年代構成-----		3
2) ボランティア活動会場-----		4
3) 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動-----		5
4) 過去1年間に行ったスポーツ以外のボランティア活動-----		6
5) ラグビーとの関わり-----		7
6) ボランティア活動の内容-----		8
7) ボランティアプログラムに対する評価-----		9
8) ボランティアへの参加理由と成果（活動前後の比較）-----		12
9) ボランティア活動の満足度-----		15
10) ラグビーに対する意識と態度（活動前後の比較）-----		16
11) スポーツボランティア活動の実施希望（活動前後の比較）-----		19
<u>3. 考察</u>	-----	21
<u>4. 参考文献</u>	-----	25

1. 調査の概要

1) 調査の目的

ラグビーワールドカップ 2019 で活動した大会ボランティアの参加動機やボランティア活動の満足度、今後のボランティア参加意向などを明らかにすることで、大会のボランティアマネジメントを検証し、ボランティアを大規模国際大会のレガシーに位置づける方策を検討するための基礎資料とする。

2) 調査方法と対象

(1) 調査方法：インターネット調査

ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会よりボランティアに対してメールを配信し、メールに記載された URL より調査画面にアクセスし、回答してもらう。

(2) 調査の回数：2回

ボランティア活動前後の意識の変化を把握するため、活動前と活動後に調査を実施した。以降、「活動前調査」と「活動後調査」と表記する。

(3) 調査対象：ラグビーワールドカップ 2019 の大会ボランティア約 13,000 人

3) 調査期間

活動前調査：2019 年 9 月 3 日～9 月 18 日

活動後調査：2019 年 11 月 21 日～12 月 14 日

参考：ラグビーワールドカップ開催期間は 9 月 20 日～11 月 2 日

4) 調査項目

(1) 過去 1 年間のスポーツボランティア実施状況

(2) 過去 1 年間のスポーツ以外のボランティア実施状況

(3) 自身とラグビーとの関わり

(4) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動の場所

(5) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動の内容

(6) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアに参加した理由【活動前調査】

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動を通じて得たことや感じたこと

【活動後調査】

(7) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動の満足度【活動後調査のみ】

(8) 今後のスポーツボランティア活動の実施希望

(9) ラグビーに対する意識と態度

(10) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアプログラムに対する評価

【活動後調査のみ】

5) 回収結果

活動前調査：4,823 人

活動後調査：4,974 人

6) 調査の実施体制

本調査は、2017 年 3 月締結の「ラグビーワールドカップ 2019 大会に向けたスポーツボランティア普及・養成に関する協定書」に基づき、以下の 3 団体が協力して実施した。

- (1) 公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会
- (2) 公益財団法人笹川スポーツ財団
- (3) 特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク

【調査の実務担当者】

澁谷 茂樹（笹川スポーツ財団 研究調査グループ シニア政策アナリスト）

藤岡 成美（笹川スポーツ財団 研究調査グループ 政策オフィサー）

藤綱 美好（日本スポーツボランティアネットワーク）

7) 調査結果について

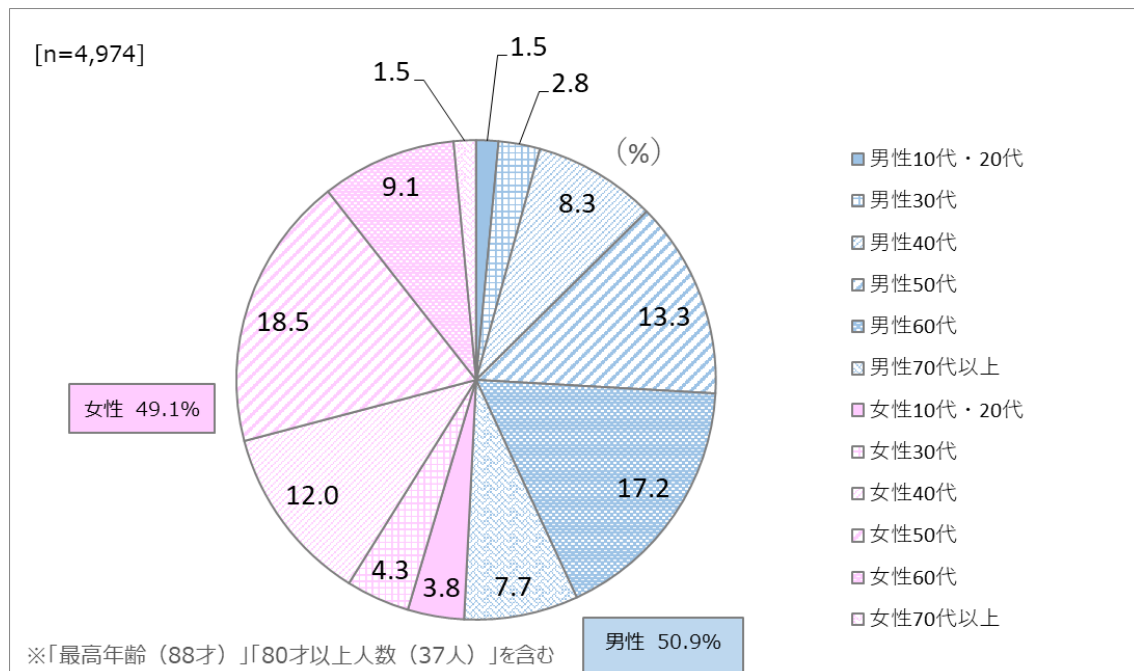
本報告書では、特に記載のない場合、活動後調査の結果のみを掲載している。

2. 調査結果

1) 回答者の性・年代構成

活動後に行った調査の回答者の性・年代構成をみた。性別にみると、男性 50.9%、女性 49.1%と男女がほぼ同じ割合であった。性・年代別にみると、最も多いのは「女性 50 代」(18.5%) で、以下、「男性 60 代」(17.2%)、「男性 50 代」(13.3%)、「女性 40 代」(12.0%) などの順となっており、40 代から 60 代が全体の約 8 割を占めている (図表 1)。

図表 1 回答者の性・年代構成



男 性	人 数	%	女 性	人 数	%
	2,530	50.9		2,444	49.1
男性10代・20代	77	1.5	女性10代・20代	188	3.8
男性30代	138	2.8	女性30代	215	4.3
男性40代	412	8.3	女性40代	595	12.0
男性50代	663	13.3	女性50代	918	18.5
男性60代	856	17.2	女性60代	452	9.1
男性70代以上	384	7.7	女性70代以上	76	1.5

2) ボランティア活動会場

回答者がボランティア活動を行った会場をみると、最も多いのは、「東京都」の17.9%で、以下、「神奈川県・横浜市」(14.1%)、「埼玉県・熊谷市」(11.9%)が続く。会場別の割合は、大会組織委員会が公表している会場別のボランティアの割合とほぼ同様であった(図表2)。

図表2 ラグビーワールドカップ2019のボランティア活動会場

ラグビーワールドカップ2019のボランティアとして、あなたが活動した場所を教えてください。(1つ選択)

ボランティア活動会場	ラグビーワールドカップ2019 ボランティア調査(活動後)			公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会公開データ 大会ボランティア数(概数)	
	n=4,974			n=13,000	
	n	%	差分	n	%
札幌市	289	5.8%	0.4	700	5.4%
岩手県・釜石市	154	3.1%	-2.3	700	5.4%
埼玉県・熊谷市	593	11.9%	1.1	1,400	10.8%
東京都	890	17.9%	-0.6	2,400	18.5%
神奈川県・横浜市	700	14.1%	2.6	1,500	11.5%
静岡県	421	8.5%	0.8	1,000	7.7%
愛知県・豊田市	355	7.1%	0.2	900	6.9%
大阪府・東大阪市	379	7.6%	0.7	900	6.9%
神戸市	330	6.6%	0.4	800	6.2%
福岡県・福岡市	218	4.4%	-1.0	700	5.4%
熊本県・熊本市	168	3.4%	-0.4	500	3.8%
大分県	477	9.6%	-1.9	1,500	11.5%

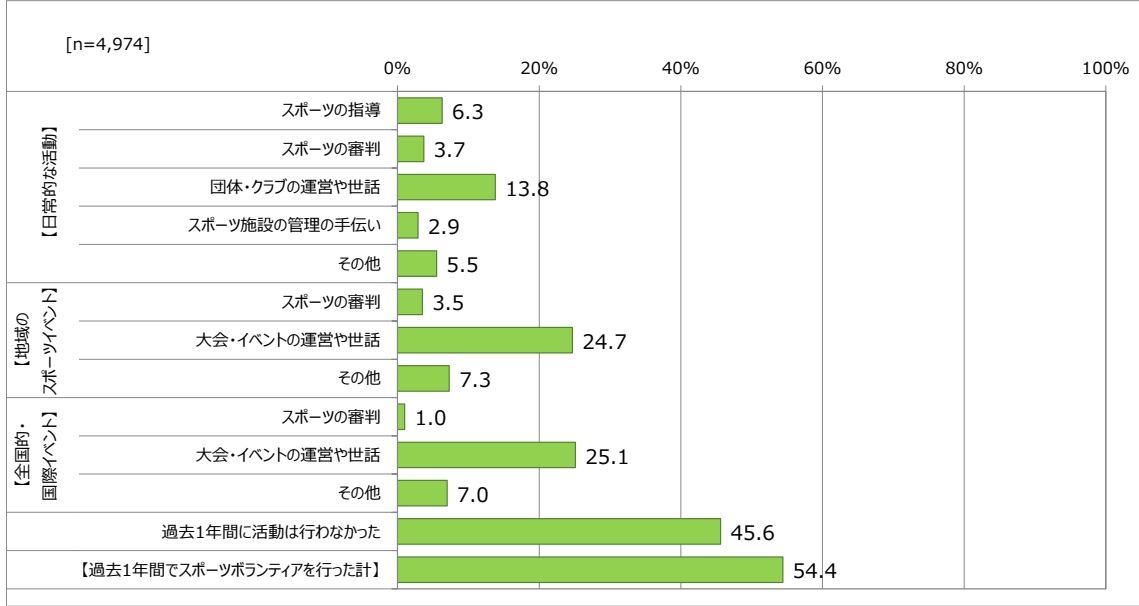
※差分：ラグビーワールドカップ2019ボランティア調査(活動後)(%)－公開データ大会ボランティア数(%)

3) 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動

過去1年間にスポーツボランティア活動を「行った」者は54.4%と全体の過半数にのぼった。活動で最も多いのは、「【全国的・国際イベント】大会・イベントの運営や世話」の25.1%で、以下、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(24.7%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(13.8%)が続く(図表3)。

図表3 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動

あなたが過去1年間に行ったスポーツに関わるボランティア活動を教えてください。(複数選択可)



図表4 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動(性・年代別)

あなたが過去1年間に行ったスポーツに関わるボランティア活動を教えてください。(複数選択可)

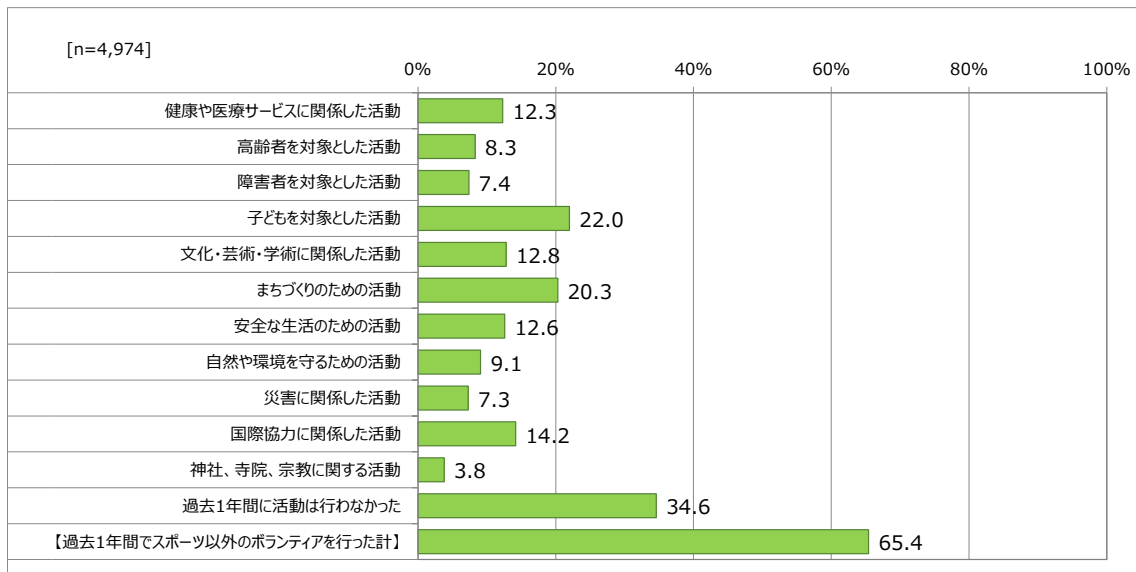
	【日常的な活動】					【地域のスポーツイベント】			【全国的・国際イベント】			は関 行わ るな か ら ん に テ ィ ポ ー ッ 活 動 に	計 (%)
	ス ポ ー ッ の 指 導	ス ポ ー ッ の 審 判	や 団 体 ・ ク ラ ブ の 運 営	の ス ポ ー ッ 施 設 の 管 理	そ の 他	ス ポ ー ッ の 審 判	営 大 会 や 世 話 ・ イ ベ ン ト の 運	そ の 他	ス ポ ー ッ の 審 判	営 大 会 や 世 話 ・ イ ベ ン ト の 運	そ の 他		
全体 (n=4,974)	6.3	3.7	13.8	2.9	5.5	3.5	24.7	7.3	1.0	25.1	7.0	45.6	54.4
男性 (n=2,530)	9.6	5.8	17.8	4.3	6.3	5.4	29.8	8.7	1.3	27.3	6.8	39.4	60.6
男性10代・20代 (n=77)	10.4	7.8	10.4	1.3	3.9	3.9	22.1	6.5	1.3	19.5	2.6	48.1	51.9
男性30代 (n=138)	13.0	7.2	15.2	4.3	10.1	5.1	28.3	5.1	2.2	27.5	3.6	39.1	60.9
男性40代 (n=412)	12.6	7.5	17.2	2.7	2.9	6.6	26.5	5.8	1.0	26.5	4.9	43.4	56.6
男性50代 (n=663)	10.9	7.5	17.2	2.4	4.4	8.0	32.9	8.0	1.7	34.2	6.0	37.7	62.3
男性60代 (n=856)	8.1	4.0	17.1	4.6	6.1	3.9	27.8	9.6	1.2	22.2	6.5	42.9	57.1
男性70代以上 (n=384)	6.5	3.9	23.7	9.1	13.0	3.4	34.6	12.8	1.3	28.9	12.5	28.4	71.6
女性 (n=2,444)	2.9	1.6	9.6	1.6	4.6	1.6	19.4	5.8	0.6	22.9	7.2	52.0	48.0
女性10代・20代 (n=188)	6.4	3.7	10.1	2.7	2.7	1.6	20.2	4.3	0.5	16.0	1.1	58.0	42.0
女性30代 (n=215)	1.4	0.5	3.7	0.9	3.3	0.9	15.3	3.7	0.9	25.6	5.1	58.6	41.4
女性40代 (n=595)	1.5	1.2	10.4	1.3	3.0	0.8	16.6	2.9	0.3	25.0	6.1	53.3	46.7
女性50代 (n=918)	3.7	2.3	10.0	1.4	4.9	2.2	20.9	6.4	0.5	24.1	8.0	51.0	49.0
女性60代 (n=452)	1.8	0.7	9.1	0.9	6.0	1.8	21.0	8.8	0.9	19.5	10.0	49.8	50.2
女性70代以上 (n=76)	6.6	1.3	15.8	7.9	13.2	1.3	23.7	13.2	0.0	21.1	10.5	34.2	65.8

4) 過去1年間に行ったスポーツ以外のボランティア活動

過去1年間にスポーツ以外のボランティア活動を「行った」者は65.4%で、全体の2/3を占めた。活動で最も多いのは、「子どもを対象とした活動」の22.0%で、以下、「まちづくりのための活動」(20.3%)、「国際協力に関係した活動」(14.2%)が続く(図表5)。

図表5 過去1年間に行ったスポーツ以外のボランティア活動

あなたが過去1年間に行ったスポーツ以外のボランティア活動を教えてください。(複数選択可)



図表6 過去1年間に行ったスポーツ以外のボランティア活動(性・年代別)

あなたが過去1年間に行ったスポーツ以外のボランティア活動を教えてください。(複数選択可)

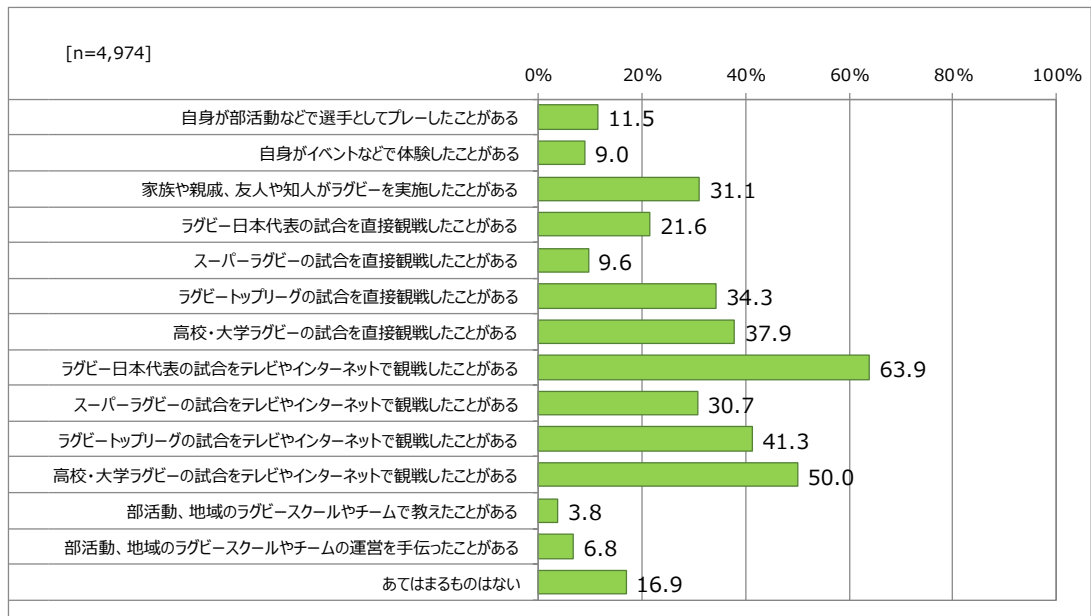
	(%)												
	健康や医療サービスに関	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子どもを対象とした活動	文化・芸術・学術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	国際協力に関係した活動	神社、寺院、宗教に関する活動	過去1年間に活動は行わなかった	過去1年間に活動は行わなかった
全体 (n=4,974)	12.3	8.3	7.4	22.0	12.8	20.3	12.6	9.1	7.3	14.2	3.8	34.6	65.4
男性 (n=2,530)	13.5	8.3	7.4	19.4	12.1	24.9	17.3	10.9	7.9	11.5	4.3	34.2	65.8
男性10代・20代 (n=77)	9.1	5.2	5.2	26.0	9.1	16.9	6.5	3.9	7.8	3.9	2.6	42.9	57.1
男性30代 (n=138)	17.4	5.1	2.9	24.6	5.1	21.0	9.4	10.1	10.9	6.5	0.0	42.0	58.0
男性40代 (n=412)	17.2	3.2	7.0	23.8	8.0	21.1	13.1	10.0	9.2	5.6	3.4	38.3	61.7
男性50代 (n=663)	21.0	4.8	7.7	14.9	8.0	26.2	15.8	10.4	8.9	8.7	3.9	37.4	62.6
男性60代 (n=856)	9.6	8.9	6.9	18.1	15.1	25.4	18.2	10.0	6.5	12.4	5.3	34.0	66.0
男性70代以上 (n=384)	4.7	20.1	10.7	22.4	20.3	28.9	27.3	16.7	6.5	23.7	5.7	19.8	80.2
女性 (n=2,444)	11.0	8.3	7.3	24.5	13.6	15.5	7.8	7.2	6.6	17.0	3.4	35.0	65.0
女性10代・20代 (n=188)	10.1	7.4	7.4	24.5	5.9	12.8	4.8	6.9	6.4	13.3	2.1	42.0	58.0
女性30代 (n=215)	13.5	3.3	3.7	16.3	7.0	12.6	1.9	7.4	6.0	14.9	4.2	43.3	56.7
女性40代 (n=595)	10.6	4.4	5.2	33.4	9.2	14.5	7.4	6.2	5.2	11.6	2.4	36.3	63.7
女性50代 (n=918)	12.0	8.2	7.6	22.1	15.8	16.3	8.7	8.0	7.8	17.6	3.5	35.6	64.4
女性60代 (n=452)	9.1	13.7	10.6	22.1	19.2	16.6	9.5	6.0	6.4	23.0	3.1	28.8	71.2
女性70代以上 (n=76)	10.5	23.7	9.2	22.4	25.0	23.7	13.2	14.5	6.6	30.3	11.8	13.2	86.8

5) ラグビーとの関わり

回答者のラグビーとの関わりについてみると、最も多いのは、「ラグビー日本代表の試合をテレビやインターネットで観戦したことがある」の63.9%で、以下、「高校・大学ラグビーの試合をテレビやインターネットで観戦したことがある」(50.0%)、「ラグビートップリーグの試合をテレビやインターネットで観戦したことがある」(41.3%)が続く。「自身が部活動などで選手としてプレーしたことがある」は11.5%であり、ラグビーのプレー経験のあるボランティアは少ないことがわかる(図表7)。

図表7 ラグビーとの関わり

ご自身とラグビーとの関わりについてお答えください。(複数選択可)



図表8 ラグビーとの関わり(性・年代別)

ご自身とラグビーとの関わりについてお答えください。(複数選択可)

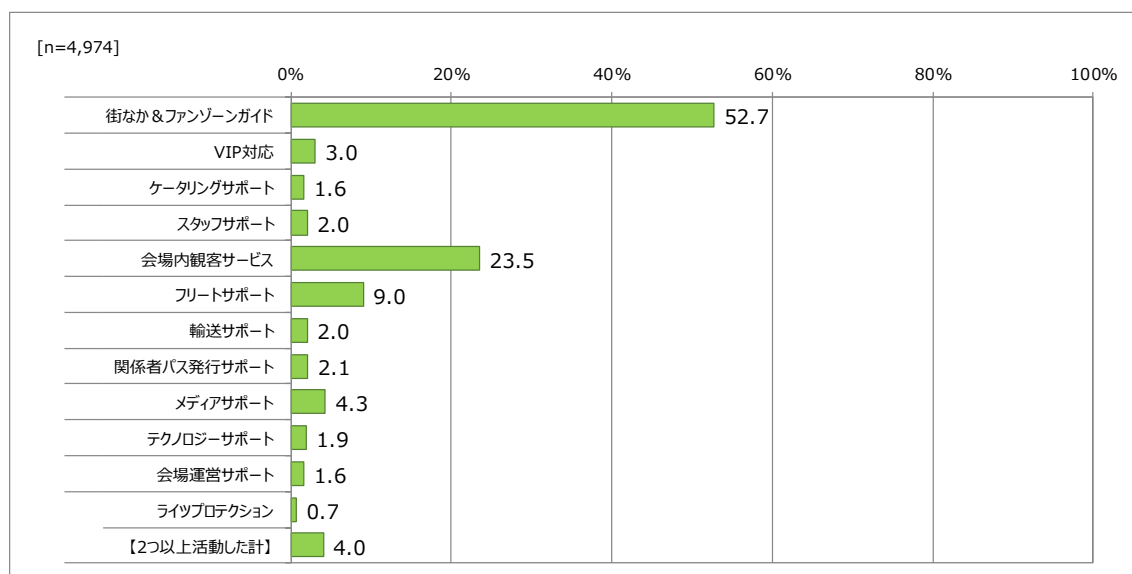
	(%)														
	あ る	自 身 が 部 活 動 な ど で 選 手 と し て プ レ イ し た こ と が	自 身 が イ ベ ン ト な ど で 体 験 し た こ と が あ る	家 族 や 親 戚 、 友 人 や 知 人 が ラ グ ビ ー を 実 施 し た こ と が あ る	ラ グ ビ ー 日 本 代 表 の 試 合 を 直 接 観 戦 し た こ と が あ る	ス ー パ ー ラ グ ビ ー の 試 合 を 直 接 観 戦 し た こ と が あ る	ラ グ ビ ー ト ップ リ ー グ の 試 合 を 直 接 観 戦 し た こ と が あ る	高 校 ・ 大 学 ラ グ ビ ー の 試 合 を 直 接 観 戦 し た こ と が あ る	ラ グ ビ ー 日 本 代 表 の 試 合 を テ レ ビ や イ ン タ ー ネ ッ ト で 観 戦 し た こ と が あ る	ス ー パ ー ラ グ ビ ー の 試 合 を テ レ ビ や イ ン タ ー ネ ッ ト で 観 戦 し た こ と が あ る	ラ グ ビ ー ト ップ リ ー グ の 試 合 を テ レ ビ や イ ン タ ー ネ ッ ト で 観 戦 し た こ と が あ る	高 校 ・ 大 学 ラ グ ビ ー の 試 合 を テ レ ビ や イ ン タ ー ネ ッ ト で 観 戦 し た こ と が あ る	部 活 動 、 地 域 の ラ グ ビ ー ス ク ー ル や チ ー ム で 教 え た こ と が あ る	部 活 動 、 地 域 の ラ グ ビ ー ス ク ー ル や チ ー ム の 運 営 を 手 伝 わ た こ と が あ る	あ て は ま る も の は な い
全体 (n=4,974)	11.5	9.0	31.1	21.6	9.6	34.3	37.9	63.9	30.7	41.3	50.0	3.8	6.8	16.9	
男性 (n=2,530)	21.5	12.9	28.2	26.4	10.6	40.7	45.6	70.7	38.9	52.1	61.3	7.1	7.7	11.9	
男性10代・20代 (n=77)	31.2	15.6	28.6	22.1	10.4	32.5	32.5	53.2	32.5	32.5	36.4	7.8	9.1	26.0	
男性30代 (n=138)	26.8	18.1	26.1	27.5	13.0	42.0	36.2	59.4	29.7	39.1	46.4	12.3	12.3	16.7	
男性40代 (n=412)	26.0	12.1	31.3	32.3	12.6	47.3	46.4	70.6	38.6	51.2	60.2	9.5	8.0	10.7	
男性50代 (n=663)	23.7	16.0	31.5	28.5	11.5	45.6	50.2	73.5	40.6	56.1	67.9	8.6	10.4	9.8	
男性60代 (n=856)	18.9	10.7	25.6	24.3	9.7	37.5	46.1	70.0	38.4	51.6	62.0	6.0	6.5	12.3	
男性70代以上 (n=384)	15.1	10.9	25.8	21.6	8.3	33.3	41.7	75.0	41.9	56.0	59.9	2.6	3.6	11.5	
女性 (n=2,444)	1.1	5.0	34.2	16.6	8.5	27.8	29.9	56.8	22.2	30.1	38.3	0.5	5.7	22.1	
女性10代・20代 (n=188)	4.3	9.0	32.4	12.2	6.4	18.1	23.4	43.6	14.4	17.0	23.9	0.0	6.9	32.4	
女性30代 (n=215)	2.3	5.6	26.5	17.2	10.2	28.4	17.7	40.9	17.2	23.3	24.2	1.9	3.7	32.6	
女性40代 (n=595)	0.7	5.7	37.3	19.2	10.9	30.3	29.1	56.3	19.5	27.1	35.8	0.5	6.4	22.5	
女性50代 (n=918)	0.7	5.2	36.1	18.1	9.2	31.5	37.1	62.4	25.9	34.4	47.1	0.4	7.2	17.5	
女性60代 (n=452)	0.4	2.0	30.5	12.4	4.6	23.9	26.1	57.5	22.3	33.6	37.4	0.0	3.3	22.6	
女性70代以上 (n=76)	1.3	3.9	34.2	11.8	5.3	9.2	21.1	67.1	30.3	31.6	32.9	0.0	0.0	15.8	

6) ボランティア活動の内容

回答者が担当したボランティアの活動で最も多いのは、「街なか&ファンゾーンガイド」の 52.7%、2 番目に多いのは、「会場内観客サービス」(23.5%) であった。上位 2 種類の活動で全体の 3/4 を占めた (図表 9)。

図表 9 ボランティア活動の内容

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアとして、あなたが担当した活動内容を教えてください。(複数選択可)

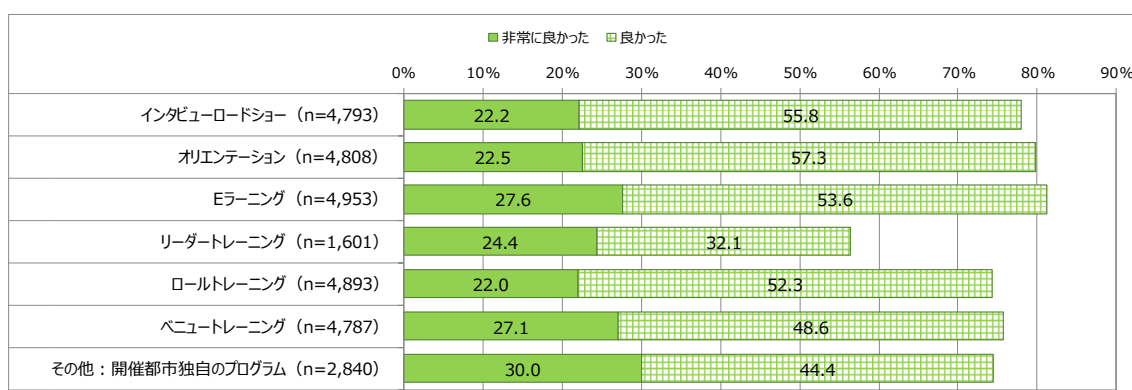


7) ボランティアプログラムに対する評価

ラグビーワールドカップ 2019 では、ボランティアの育成に向けて、応募者の選考のためのインタビューロードショー（採用面接。2018 年 8 月～）から、採用されたすべてのボランティアに共通の E ラーニング（2019 年 2 月～）、活動の役割ごとに行われるロールトレーニング（2019 年 7 月）、活動場所で行われるベニユートレーニング（2019 年 8 月～）まで、多様な研修の機会が用意された。これらのプログラムに対する評価を、「非常に良かった」「良かった」「どちらともいえない」「良くなかった」「全く良くなかった」の 5 段階でたずねた。「非常に良かった」が最も多いのは、「その他：開催都市独自のプログラム」の 30.0%で、以下、「E ラーニング」（27.6%）、「ベニユートレーニング」（27.1%）が続く。「リーダートレーニング」を除くプログラムは、「非常に良かった」と「良かった」を合わせた割合が 7 割を超えており、ボランティアの育成のために大会組織委員会や開催都市が提供したプログラムは概ね高評価であるといえる（図表 10）。

図表 10 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアプログラム評価

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアに関する以下のプログラムについて、あなたの評価を教えてください。（それぞれ 1 つずつ選択）

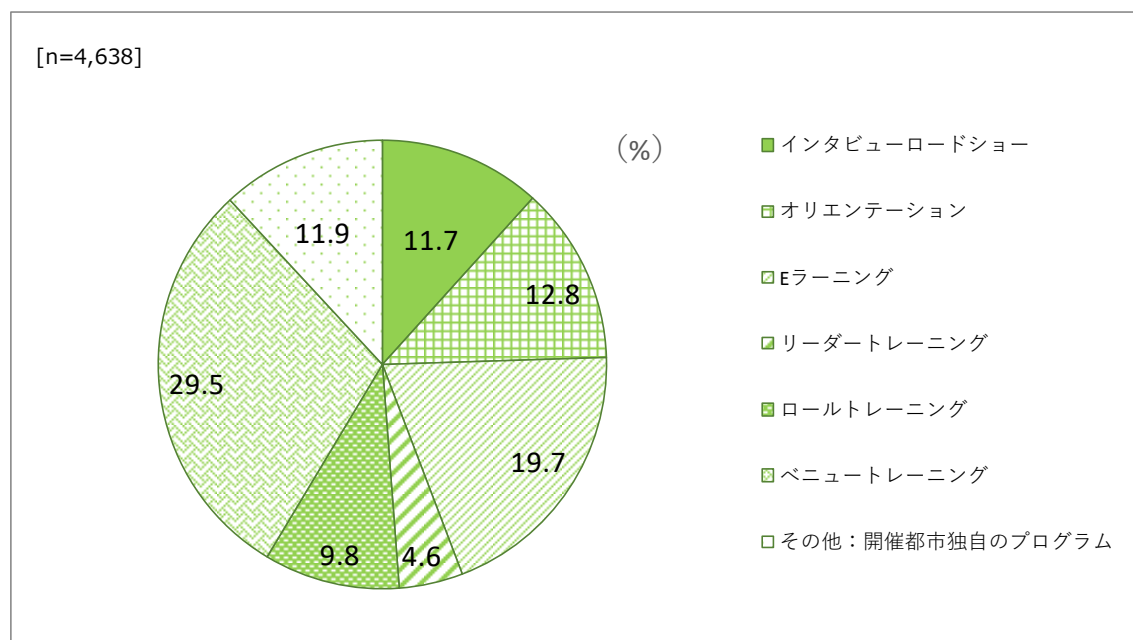


注) プログラムに「参加していない」と回答した者を除き集計

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアプログラムのいずれかについて「非常に良かった」「良かった」と回答した者に対し、「最も良かった」プログラムをたずねた。最も多かったのは、「ベニユートレーニング」の 29.5%で、以下、「E ラーニング」(19.7%)、「オリエンテーション」(12.8%)が続く(図表 11)。

図表 11 「最も良かった」ボランティアプログラム

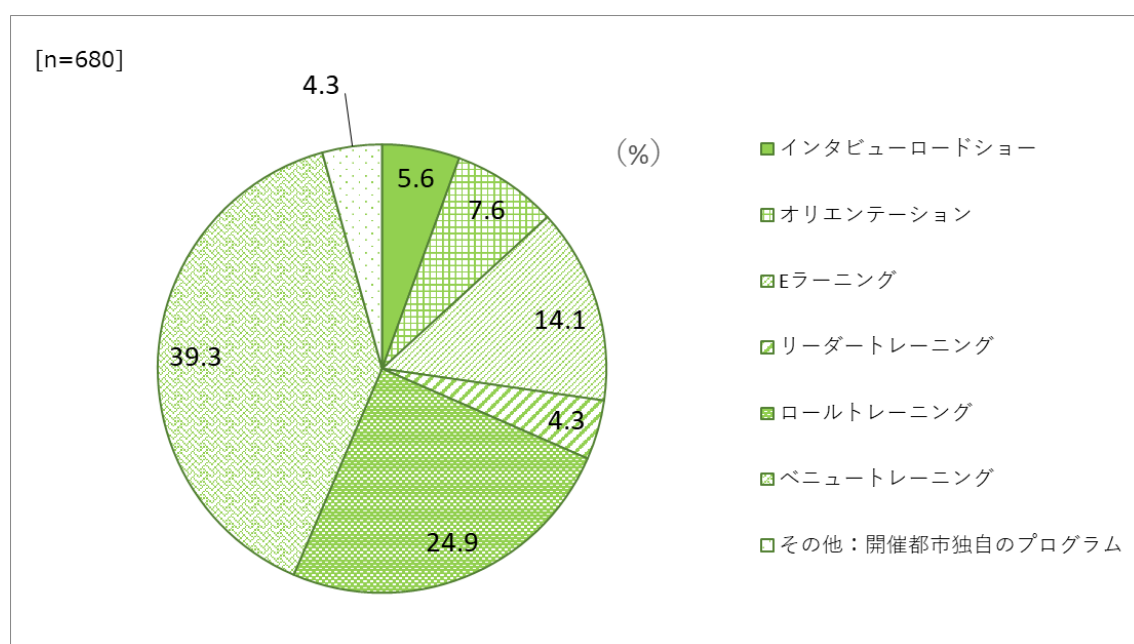
プログラムの中で、最も良かったプログラムはどれですか。(1つ選択)



ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアプログラムのいずれかについて「良くなかった」「全く良くなかった」と回答した者に対し、「最も良くなかった」プログラムをたずねた。最も多かったのは、「ベニユートレーニング」の 39.3%で、以下、「ロールトレーニング」(24.9%)、「E ラーニング」(14.1%) が続く (図表 12)。

図表 12 「最も良くなかった」ボランティアプログラム

プログラムの中で、最も良くなかったプログラムはどれですか。(1つ選択)



8) ボランティアへの参加理由と成果（活動前後の比較）

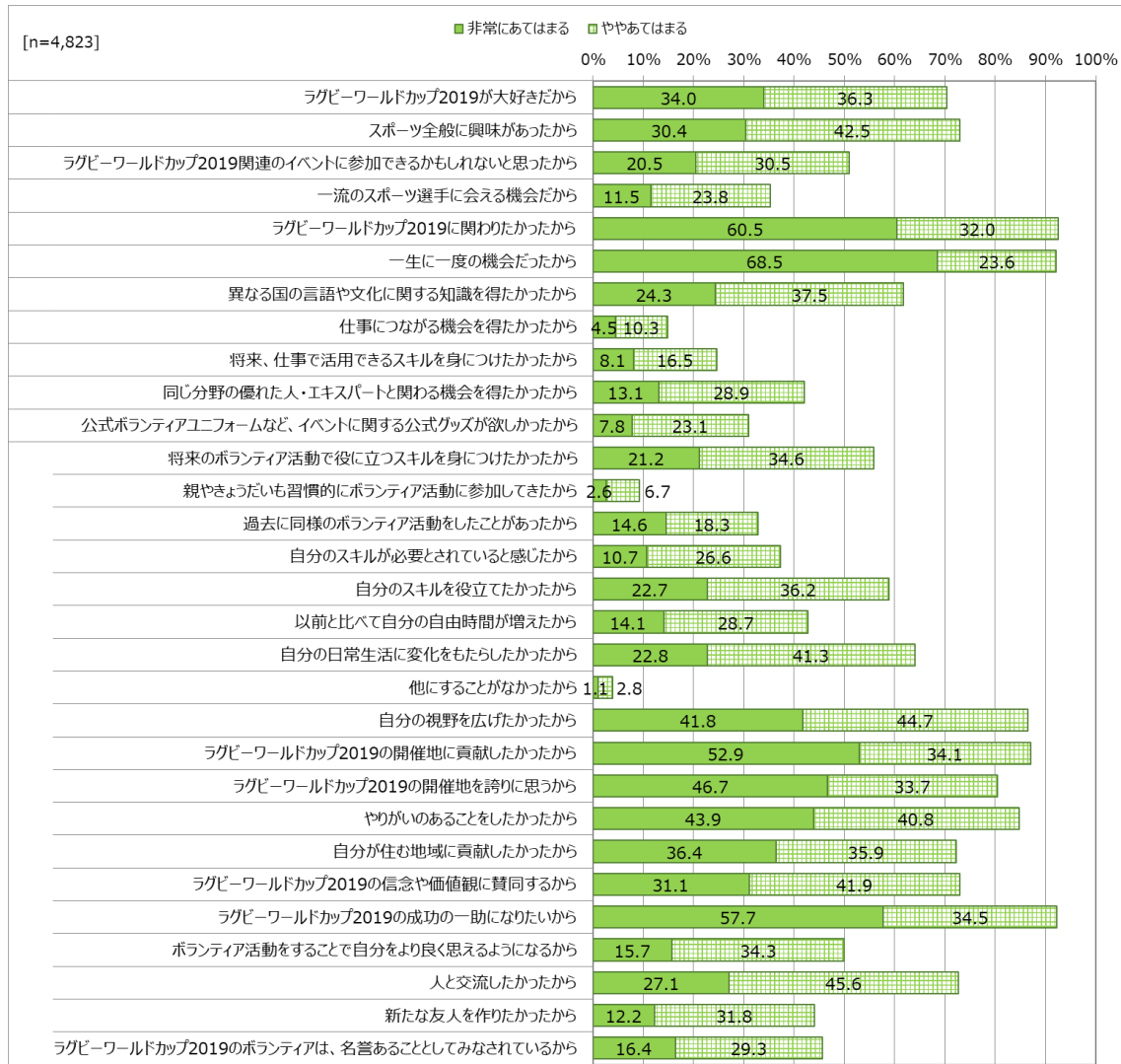
大会前に実施した「活動前調査」で、ボランティア活動への参加理由を「非常にあてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5段階評価でたずね、大会後の「活動後調査」では、同じ調査項目を用いて、活動を通じて得たことや感じたこと（成果）をたずねた。これにより、大会前のボランティア活動への期待が、大会後の実感にどう反映されたかを比較した。

活動前調査において、「非常にあてはまる」が最も多いのは、「一生に一度の機会だったから」の68.5%で、以下、「ラグビーワールドカップ2019に関わりたかったから」(60.5%)、「ラグビーワールドカップ2019の成功の一助になりたいから」(57.7%)が続く(図表13)。活動後調査において、「非常にあてはまる」が最も多いのは、「ラグビーワールドカップ2019に関わることができた」の75.2%で、以下、「一生に一度の経験ができた」(73.3%)、「ラグビーワールドカップ2019の開催地を誇りに感じる事ができた」(62.6%)が続く(図表14)。

活動前の参加理由（期待）と活動後の成果を比較すると、多くの項目で、「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた「あてはまる」の割合が増加しており、多くの回答者にとって、ボランティア活動が期待どおりかそれ以上の内容であったことが推察される。また、「非常にあてはまる」の割合が大きく伸びた項目は、「公式ボランティアユニフォームなど、イベントに関する公式グッズが欲しかったから／手に入った」(42.5ポイント：7.8%→50.3%)、「ラグビーワールドカップ2019関連のイベントに参加できるかもしれないと思ったから／することができた」(28.3ポイント：20.5%→48.8%)、「ラグビーワールドカップ2019の信念や価値観に賛同するから／することができた」(27.4ポイント：31.1%→58.5%)などであった。ボランティア活動の充実に加えて、日本代表チームの活躍を含めた大会自体の盛り上がり、ボランティアの期待を上回ったことが影響していると考えられる(図表13・図表14)。

図表 13 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの参加理由【活動前調査】

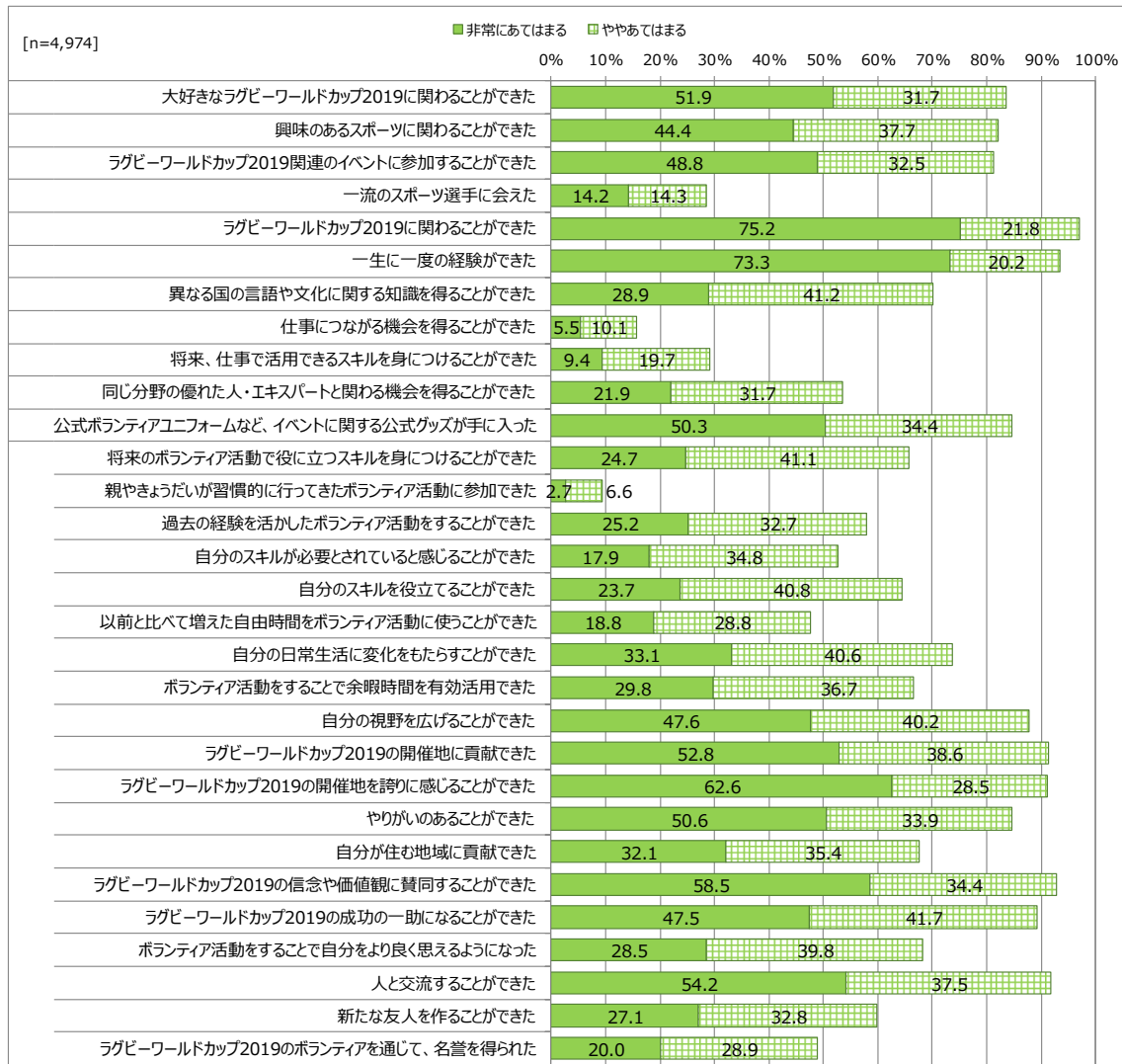
あなたがラグビーワールドカップ 2019 のボランティアに参加した理由はなんですか。以下の項目について、お答えください。（それぞれ 1 つずつ選択）



図表 14 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動の成果【活動後調査】

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動を通じて、あなたが得たことや感じたことはなんですか。

以下の項目についてお答えください。（それぞれ1つずつ選択）



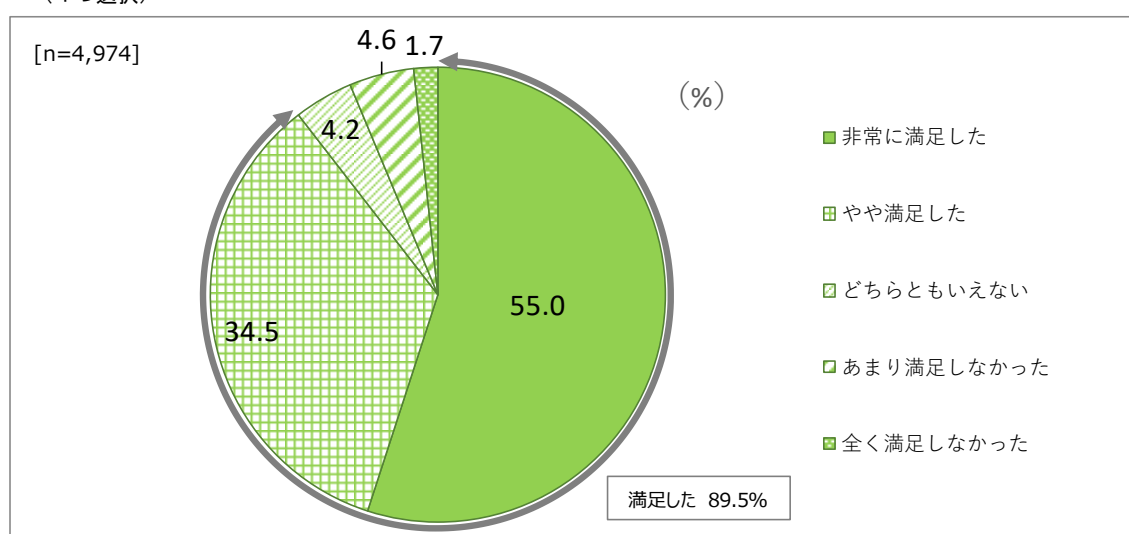
9) ボランティア活動の満足度

ボランティア活動全体の満足度を5段階でたずねた。「非常に満足した」が55.0%、「やや満足した」が34.5%であり、両者を合わせると「満足した」が9割を占めた。一方、「あまり満足しなかった」と「全く満足しなかった」を合わせた「満足しなかった」は6.3%であり、回答したほとんどのボランティアが活動に満足していることがわかる（図表15）。

図表 15 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動満足度

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動全体を振り返って、あなたの満足度を教えてください。

（1つ選択）



図表 16 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動満足度（性・年代別）

ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動全体を振り返って、あなたの満足度を教えてください。

（1つ選択）

	(%)				
	満 非 足 常 し に た	満 や 足 や し た	い も ど い ち え ら な と	か 満 あ っ 足 ま た し り な	か 満 全 っ 足 く た し な
全体 (n=4,974)	55.0	34.5	4.2	4.6	1.7
男性 (n=2,530)	54.2	34.2	4.1	5.1	2.4
男性10代・20代 (n=77)	55.8	32.5	5.2	5.2	1.3
男性30代 (n=138)	60.1	28.3	1.4	5.1	5.1
男性40代 (n=412)	60.7	28.9	3.6	3.9	2.9
男性50代 (n=663)	57.5	30.8	4.2	5.0	2.6
男性60代 (n=856)	50.9	38.0	4.2	5.5	1.4
男性70代以上 (n=384)	46.6	39.6	4.9	6.0	2.9
女性 (n=2,444)	55.9	34.9	4.4	4.0	0.9
女性10代・20代 (n=188)	60.1	33.0	2.7	4.3	0.0
女性30代 (n=215)	60.5	31.2	2.8	4.2	1.4
女性40代 (n=595)	56.6	34.6	4.0	3.7	1.0
女性50代 (n=918)	54.9	35.3	5.0	4.0	0.8
女性60代 (n=452)	52.9	36.5	4.9	4.4	1.3
女性70代以上 (n=76)	55.3	36.8	5.3	1.3	1.3

10) ラグビーに対する意識と態度（活動前後の比較）

大会前に実施した「活動前調査」と大会後の「活動後調査」で、ラグビーに対する意識と態度について、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5段階評価で調査し、活動前後の変化をみた。

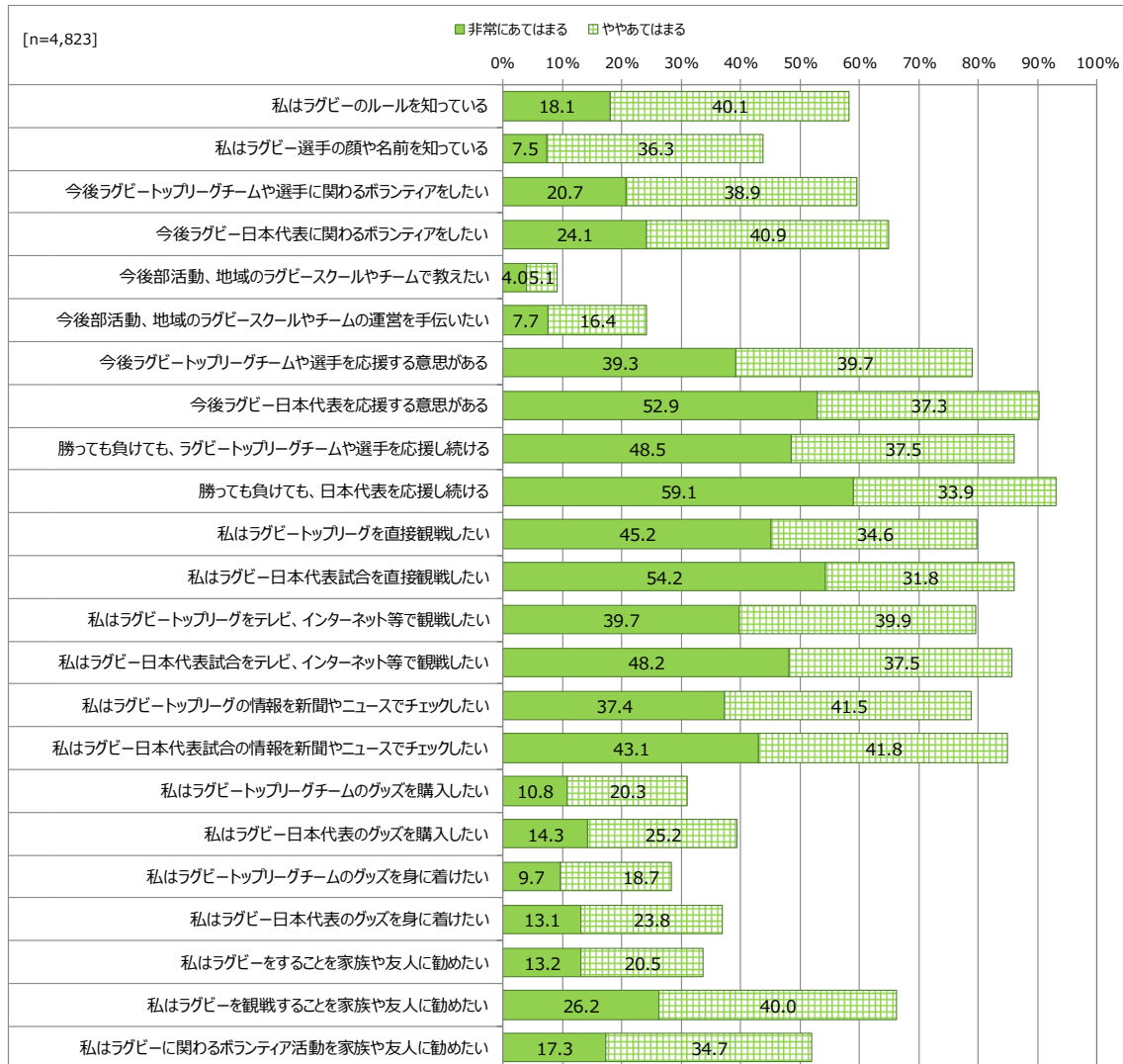
活動前調査において、「非常にあてはまる」が最も多いのは、「勝っても負けても、日本代表を応援し続ける」の59.1%で、以下、「私はラグビー日本代表試合を直接観戦したい」

(54.2%)、「今後ラグビー日本代表を応援する意思がある」(52.9%)が続く(図表17)。活動後調査で、「非常にあてはまる」が最も多いのは、「勝っても負けても、日本代表を応援し続ける」の70.7%で、以下、「今後ラグビー日本代表を応援する意思がある」(70.3%)、「私はラグビー日本代表試合を直接観戦したい」(67.9%)が続く(図表18)。

活動前と活動後を比較すると、多くの項目で、「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた「あてはまる」の割合が増加しており、ボランティア活動を通じて回答者のラグビーに対する意識や態度が前向きになったことが推察される。また、「非常にあてはまる」の割合が大きく伸びた項目は、「今後ラグビー日本代表を応援する意思がある」(17.4ポイント：52.9%→70.3%)、「今後ラグビー日本代表に関わるボランティアをしたい」(17.2ポイント：24.1%→41.3%)、「私はラグビー日本代表試合をテレビ、インターネット等で観戦したい」(15.6ポイント：48.2%→63.8%)などであった(図表17・図表18)。

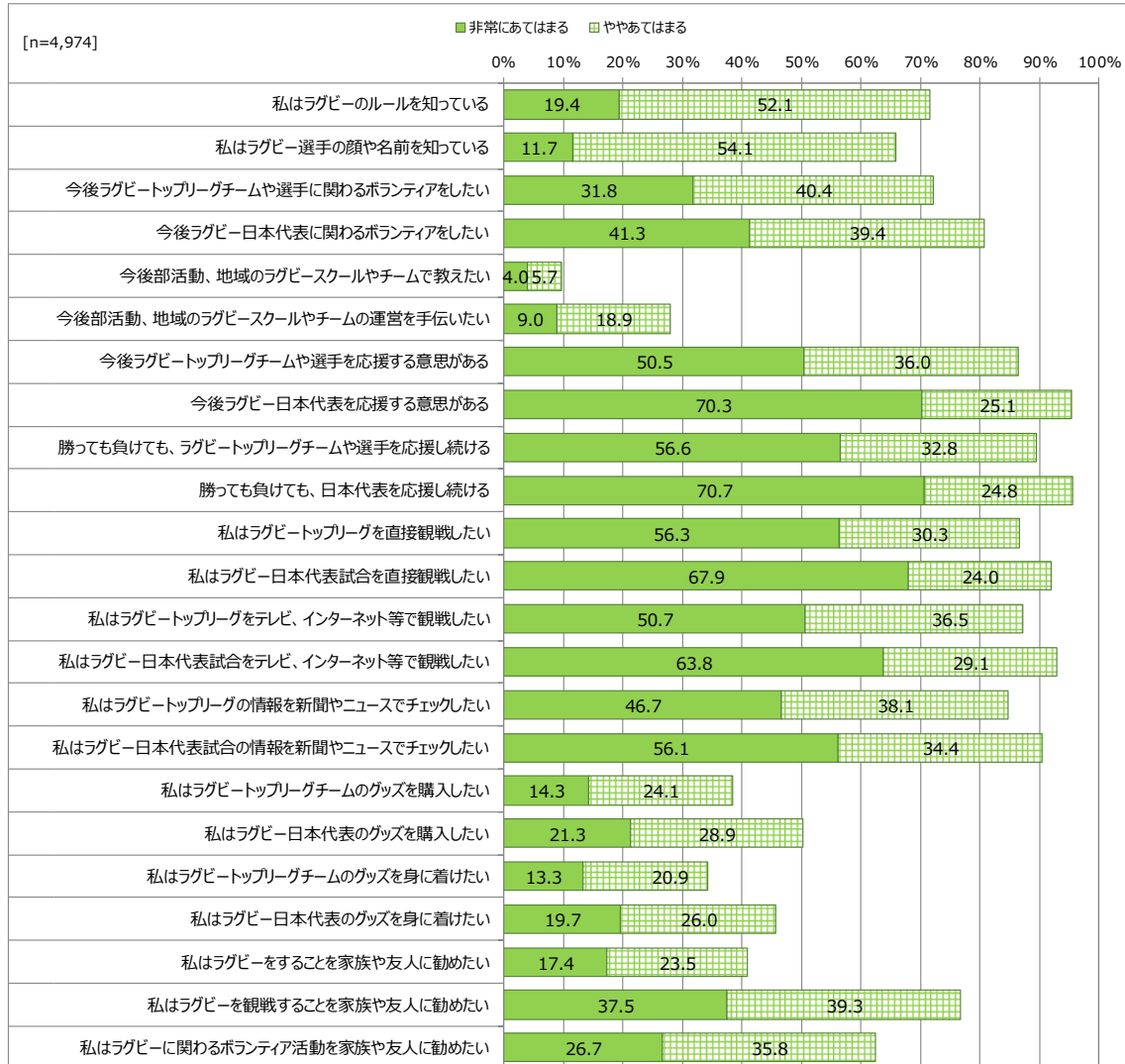
図表 17 ラグビーに対する意識と態度【活動前調査】

以下の項目について、あなたの考えを教えてください。（それぞれ1つずつ選択）



図表 18 ラグビーに対する意識と態度【活動後調査】

以下の項目について、あなたの考えを教えてください。（それぞれ1つずつ選択）



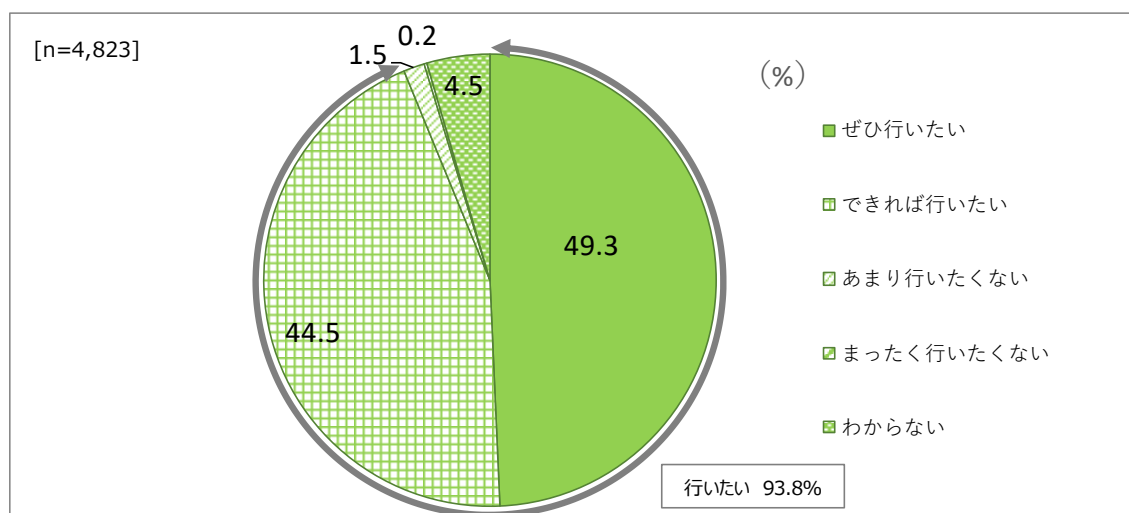
1 1) スポーツボランティア活動の実施希望（活動前後の比較）

今後のスポーツボランティア活動の実施希望について、大会前に実施した「活動前調査」と大会後の「活動後調査」でたずね、活動前後の変化をみた。

活動前調査では、「ぜひ行いたい」（49.3%）と「できれば行いたい」（44.5%）を合わせた「行いたい」が 93.8%であった。活動後調査では、「ぜひ行いたい」（55.4%）と「できれば行いたい」（39.1%）の合計が 94.5%で、「行いたい」の活動前後の差は 0.7 ポイントでほとんど増えていないが、「ぜひ行いたい」の割合は 6.1 ポイント増加しており、ラグビーワールドカップのボランティア活動を通じて、スポーツに関わるボランティアの意欲が向上したことがうかがえる（図表 19・図表 20）。

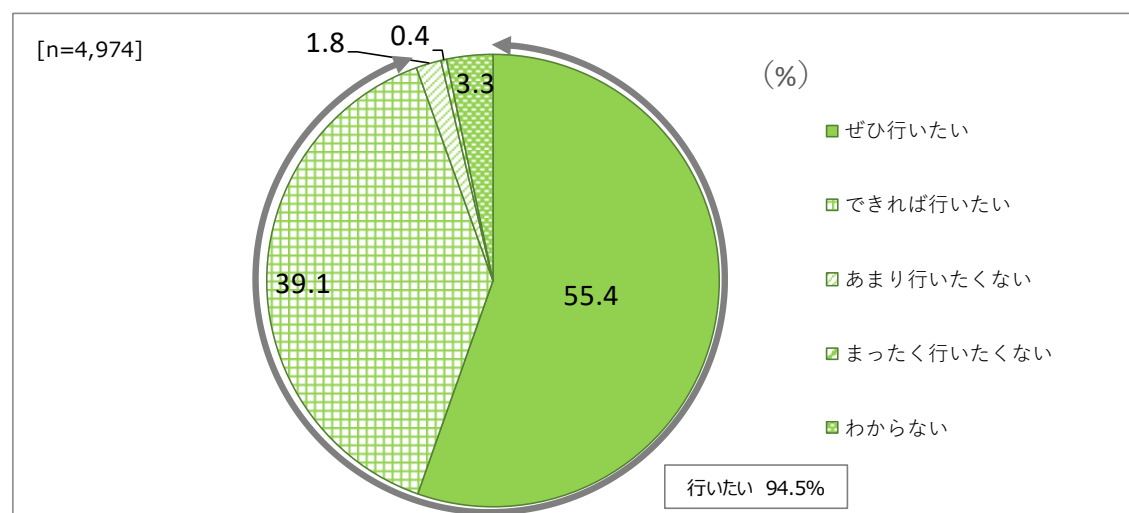
図表 19 スポーツボランティア活動の実施希望【活動前調査】

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）



図表 20 スポーツボランティア活動の実施希望【活動後調査】

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）



図表 21 スポーツボランティア活動の実施希望（性・年代別）【活動前調査】

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）

	行 い た い	行 い き た れ い ば	行 あ い ま た り く な い	行 ま い っ た た く く な い	わ か ら な い
全体（n=4,823）	49.3	44.5	1.5	0.2	4.5
男性（n=2,499）	48.4	45.2	1.8	0.2	4.4
男性10代・20代（n=91）	51.6	42.9	0.0	0.0	5.5
男性30代（n=159）	52.2	40.3	3.1	0.6	3.8
男性40代（n=420）	52.9	39.8	2.6	0.0	4.8
男性50代（n=647）	51.3	44.7	0.8	0.0	3.2
男性60代（n=818）	43.0	50.0	1.6	0.4	5.0
男性70代以上（n=364）	47.5	44.2	3.0	0.5	4.7
女性（n=2,324）	50.3	43.8	1.2	0.2	4.5
女性10代・20代（n=249）	59.8	33.3	2.0	0.4	4.4
女性30代（n=197）	56.3	40.6	0.5	0.0	2.5
女性40代（n=544）	51.1	43.4	1.3	0.0	4.2
女性50代（n=834）	50.8	43.0	0.6	0.4	5.2
女性60代（n=436）	41.1	52.8	1.8	0.0	4.4
女性70代以上（n=64）	45.3	45.3	3.1	0.0	6.3

図表 22 スポーツボランティア活動の実施希望（性・年代別）【活動後調査】

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）

	行 い た い	行 い き た れ い ば	行 あ い ま た り く な い	行 ま い っ た た く く な い	わ か ら な い
全体（n=4,974）	55.4	39.1	1.8	0.4	3.3
男性（n=2,530）	54.4	40.4	1.6	0.4	3.2
男性10代・20代（n=77）	55.8	39.0	1.3	1.3	2.6
男性30代（n=138）	59.4	30.4	3.6	1.4	5.1
男性40代（n=412）	60.7	31.8	2.4	0.2	4.9
男性50代（n=663）	58.8	37.1	0.6	0.2	3.3
男性60代（n=856）	50.0	45.7	1.2	0.5	2.7
男性70代以上（n=384）	47.7	47.4	2.9	0.0	2.1
女性（n=2,444）	56.5	37.7	2.0	0.5	3.3
女性10代・20代（n=188）	64.4	31.4	3.2	0.0	1.1
女性30代（n=215）	60.0	34.0	2.3	0.9	2.8
女性40代（n=595）	56.8	37.5	2.0	0.5	3.2
女性50代（n=918）	57.5	36.4	2.0	0.5	3.6
女性60代（n=452）	50.4	44.2	1.8	0.2	3.3
女性70代以上（n=76）	47.4	43.4	0.0	1.3	7.9

3. 考 察

■調査結果の分析

前項に掲載した調査結果をさらに詳細に分析することで、ラグビーワールドカップのボランティアの実態を明らかにしたい。

1. 大会ボランティアの特徴

本調査では、ラグビーワールドカップでボランティアとして参加した者の約4割が回答していることから、結果は大会ボランティアの全体傾向に近いものと考えられる。

1) 「スポーツ」と「スポーツ以外」のボランティアの掛け持ちが多数派

回答者の過去1年間の「スポーツボランティア実施率」(54.4%、図表3)と「スポーツ以外のボランティア実施率」(65.4%、図表5)をもとに、それぞれの重複実施者の割合を算出し、一般の人々を対象に同様の質問項目で実施したインターネット調査「スポーツボランティアに関する調査2019」(以下「ネット調査」)の結果と比較した。ネット調査のボランティア実施率23.1%(100%－「ボランティアは実施していない」76.9%)に対し、本調査のボランティア実施率は79.8%であり、ラグビーワールドカップのボランティアが、多くのボランティア経験者にささえられていたことが確認できる。中でも、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアを実施」が、ネット調査の4.0%に対して40.0%と10倍となっており、回答者の多くが、スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアを「掛け持ち」していることがわかる(図表23)。

図表 23 過去1年間のボランティア実施状況：スポーツとスポーツ以外のボランティア
【他の調査との比較】

過去1年間のボランティア実施状況	本調査	スポーツボランティアに関する調査2019
スポーツボランティアのみ実施	14.4%	1.4%
スポーツボランティアと スポーツ以外のボランティアを実施	40.0%	4.0%
スポーツ以外のボランティアのみ実施	25.4%	17.7%
ボランティアは実施していない	20.2%	76.9%

2) ラグビーとの関わりが薄いか無い者が3割

ボランティアのこれまでのラグビーとの関わりは、「プレー経験」「直接観戦」「テレビ・インターネット観戦」「スクールやチームの運営」などについてたずねた。最も多かったのはテレビやインターネットでの観戦経験であった(図表7)。テレビ・インターネッ

トの観戦経験のみの者（プレーや直接観戦などの経験はなし）を抜き出すと 18.0%となる。ラグビーとの関わりに「あてはまるものがない」と答えた 16.9%とあわせると、ボランティアの約 3 割が、ラグビーはテレビやインターネットでしか観戦したことがない者や、ラグビーとの関わりがなかった者で占められていることがわかる。

2. ボランティアプログラムの評価

大会組織委員会と開催都市が連携して実施した「インタビューロードショー」から「ベニユートレーニング」までのプログラムと、各開催都市が独自に実施したプログラムは、おおむね高評価であった。「非常に良かった」と「良かった」の合計でみると、最も評価が高いのは「E ラーニング」の 81.2%で、以下、「オリエンテーション」(79.8%)、「インタビューロードショー」(78.0%) の順となるが、「非常に良かった」に絞ると、「開催都市独自のプログラム」と「ベニユートレーニング」が上位に入る（図表 10）。また、「最も良かった」と評価されたプログラムと、「最も良くなかった」と評価されたプログラムで最も多かったのは、いずれも「ベニユートレーニング」であった（図表 11・図表 12）。すべてのプログラムについて、1 つ以上「非常に良かった」「良かった」と評価した回答者は 4,638 人、1 つ以上「良くなかった」「全く良くなかった」と評価した回答者は 680 人と、プログラムを良くなかったと回答した者は少ないことを考慮する必要があるが、「ベニユートレーニング」の評価が割れている点は興味深い。実際に活動する場所で、直前に受けたことによる臨場感や高揚感が高評価の要因のひとつと考えられる。一方で、開催が大会直前であったため、ベニユートレーニングを担当できる人員が限られていたことから、活動内容の一部では、対応が十分に行き届かなかったこともあり、これが低評価につながった可能性がある。

3. 活動に対する満足度

ボランティア活動に対する満足度は、「非常に満足した」と「やや満足した」の合計がほぼ 9 割に達していることから、極めて高いといえる（図表 15）。活動内容別の満足度をみると、「ライツプロテクション」「メディアサポート」「スタッフサポート」「会場内観客サービス」において、「非常に満足した」の割合が全体平均（55.0%）を 10 ポイント以上上回っている。一方で、「フリーサポート」と「関係者パス発行サポート」では、「非常に満足した」の割合が全体平均を 10 ポイント以上下回っている。特に「フリーサポート」の値は 29.5%と突出して低い。この裏返しとして、「フリーサポート」では、「あまり満足しなかった」と「全く満足しなかった」の割合が他の活動に比べて高くなっている（図表 24）。

図表 24 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティア活動満足度（活動内容別）
(%)

		た 非 常 に 満 足 し	や や 満 足 し た	え ど な ち い ら と も い	な あ か ま っ た 満 足 し	か 全 っ く た 満 足 し な
全体 (n=4,974)		55.0	34.5	4.2	4.6	1.7
活 動 内 容 別	街なか&ファンゾーンガイド (n=2,623)	51.9	37.9	4.7	4.5	1.1
	VIP対応 (n=150)	55.3	31.3	2.7	7.3	3.3
	ケータリングサポート (n=82)	62.2	26.8	6.1	3.7	1.2
	スタッフサポート (n=99)	67.7	25.3	5.1	0.0	2.0
	会場内観客サービス (n=1,170)	67.2	27.8	2.9	1.5	0.7
	フリーサポート (n=448)	29.5	42.2	6.9	12.3	9.2
	輸送サポート (n=97)	51.5	28.9	7.2	9.3	3.1
	関係者バス発行サポート (n=105)	41.9	45.7	5.7	3.8	2.9
	メディアサポート (n=213)	73.2	23.0	0.9	2.3	0.5
	テクノロジーサポート (n=93)	50.5	33.3	6.5	7.5	2.2
	会場運営サポート (n=79)	58.2	25.3	5.1	6.3	5.1
	ライツプロテクション (n=37)	83.8	13.5	0.0	0.0	2.7

4. 今後のスポーツボランティア活動の実施希望

活動後調査における今後のスポーツボランティア活動の実施希望は、「ぜひ行いたい」と「できれば行いたい」の合計が 94.5%と極めて高かった。また、活動前調査と比べて、「是非行いたい」の割合が増加していた（図表 19・図表 20）。過去 1 年間のスポーツボランティアの経験の有無別にみると、スポーツボランティア実施者の「行いたい」（「ぜひ行いたい」＋「できれば行いたい」）の割合は 97.1%（「ぜひ行いたい」 66.1%、「できれば行いたい」 31.0%）であった。一方、スポーツボランティア非実施者の「行いたい」の割合は、91.5%（「ぜひ行いたい」 42.7%、「できれば行いたい」 48.8%）となっており、スポーツボランティアの実施有無により差がみられる。しかし、過去 1 年間にスポーツボランティアを行わなかった者の 9 割が、今後のスポーツボランティア活動を希望していることは注目に値する。

■ボランティアを大会レガシーに

アジア初開催となったラグビーワールドカップ 2019 では、世界各国から日本を訪れた多くの人々が会場に足を運んだ。また、日本代表チームの活躍もあり、広く国民にラグビーの魅力が伝わったことで、大会は大成功であったといえる。同時に高く評価されたのが、大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」による「おもてなし」である。会場の最寄り駅、ファンゾーン、スタジアムやその周辺などにおける笑顔での観客の出迎えや案内・誘

導、記念撮影のサポート、試合終了後のハイタッチ（ハイファイブ）による見送りなど、ホスピタリティマインドの高いボランティアの活躍は、国内や海外の観客・メディアなどから賞賛された。

ボランティアの力を引き出したのは、主催者であるワールドラグビーと大会組織委員会のボランティアに対するスタンスである。大会組織委員会は、ボランティアを、ラグビーの価値と日本の魅力を伝える「大会の顔」と位置づけた。大会の特別な雰囲気や空気感を組織委員会や開催自治体の職員らと共に創り上げる役割をボランティアに求め、その行動指針を「TEAM NO-SIDE Principles」（チーム・ノーサイド プリンシプル）としてまとめ、研修（トレーニング）の機会に繰り返し伝えた。日本ラグビー界が尊ぶノーサイド精神（試合終了後、勝者の側〈サイド〉も敗者の側も関係なく、互いの健闘を称え合うこと）にちなんだネーミングや、ボランティアのユニフォームやグッズのクオリティ、大会後のサンキューパーティの開催など、大会組織委員会のボランティアに対する敬意が随所にみてとれた。組織委員会のこうしたマネジメントに加えて、大会が当初の予想以上に盛り上がったことも追い風となり、ボランティアが高いパフォーマンスを発揮したと推察される。これまでにわが国で開催された大規模国際大会の中で、ボランティアマネジメントにおいて最も成功した事例といっても過言ではない。

大会で「一生に一度」の経験をしたボランティアは、ラグビーワールドカップが遺した無形のレガシーである。大会のあらゆる成果を大会組織委員会から継承する（公財）日本ラグビーフットボール協会、そして全国 12 ヶ所の開催自治体には、レガシーとしてのボランティアの価値を正しく認識し、その最大化に努めることを期待したい。調査結果が示すとおり、大会ボランティアの多くは、今後のさらなるスポーツボランティアの機会を欲している。大会が彼らに灯したボランティアの火を絶やさぬよう、日本代表戦をはじめとするラグビーの興行や、地方自治体が主催・共催する大小さまざまな規模のスポーツイベントにおいて、彼らを活かす場づくりが継続されることこそが、真の意味でのボランティアレガシーの創出といえるだろう。

4. 参考文献

- Dickson, T. J., Darcy, S., Edwards, D., & Terwiel, F. A. (2015). Sport mega-event volunteers' motivations and postevent intention to volunteer: The Sydney World Masters Games, 2009. *Event Management*, 19(2), 227-245.
- 笹川スポーツ財団 (2017) スポーツ白書 2017—スポーツによるソーシャルイノベーション—.
- 笹川スポーツ財団 (2018) スポーツボランティアに関する調査 2018.
- 笹川スポーツ財団 (2019) スポーツボランティアに関する調査 2019.
- 笹川スポーツ財団 (2018) スポーツライフ・データ 2018.
- 総務省統計局 (2018) 平成 28 年 社会生活基本調査報告. 第 2 巻 全国・地域 生活行動編. 日本統計協会
- 東京都生活文化局 (2018) 都民等のボランティア活動等に関する実態調査.
- 日本スポーツボランティア学会 (2008) スポーツボランティア・ハンドブック. 明和出版
- 文部科学省 (2015) 「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究 (スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)」報告書. 笹川スポーツ財団
- 文部科学省 (2015) 「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究 (スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)」報告書. 笹川スポーツ財団
- 山口泰雄 (2004) スポーツ・ボランティアへの招待—新しいスポーツ文化の可能性—. 世界思想社
- ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 (2018) ラグビーワールドカップ 2019 日本大会公式ボランティアプログラム「NO-SIDE」募集要項.
- ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 (2018) TEAM NO-SIDE Principles.

ラグビーワールドカップ 2019 大会ボランティアに関する調査 報告書

2020 年 3 月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3F

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。

本事業は、ポートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。